

【学校教育目標】

やさ かしこ たくま
～優しく、賢く、逞しく～ 未来を切り拓く生徒の育成～

【教育ビジョン】

- 1 目指す学校像 校訓： 全校一心 ～ 明るく、強く、美しく ～
 - ① いのちと人権を守る、安全で安心な学校
 - ② 生きる力（知・徳・体）を鍛え育てる学校
 - ③ 保護者や地域から信頼される学校
 - ④ 働きがいのある学校
- 2 めざす生徒像
優しい人、賢い人、逞しい人
- 3 めざす教師像 ～プロとしての自覚と誇りを持つ教職員～
○授業で勝負する教師、○子どもと共に歩む教師、○子どもの模範となる教師、○チームで取り組む教師
- 4 今年度の教職員の重点目標
「組織で協議し、組織で徹底する ～各種委員会、担当者会の活性化～」

【具体的取組】

- 0 いのちと人権を守る教育 ～人権教育を土台とした教育活動～
 - ※「生徒一人ひとりを、人として尊重し、自立に向けての土台を鍛え育てる教育」を全ての教育活動の柱とする
 - 「人間的なふれあい」と確かな生徒理解に基づく生徒指導の推進
 - ・生徒指導が対症療法的な対応に留まることなく、褒める生徒指導、認める生徒指導に努め、先手で行動し、生徒の成長につなげる。
 - ・生徒の言動の背景を探り、確かな生徒理解に基づき指導を行う。
 - ・保護者との連携を密にした生徒指導の推進（「良い報告は電話で、悪い報告は顔を見て」が基本）
 - ※先手先手の保護者連絡（スピードは誠意。「生徒が保護者に伝える前に連絡を」が基本）
 - いじめを許さない、一人ひとりを大切にする取組
 - ・いじめの見落とし・見逃し、ゼロ
 - ・八千代中学校いじめ防止基本方針に基づく、迅速かつ組織的な対応（未然防止・早期発見・早期対応）
 - ・児童生徒カルテシステムによるきめ細やかなサポート（必ず指導の記録を残し、確実に情報共有・引き継ぎを行う。一人で抱え込まない。）
 - ・いじめ対策委員会（定例）による対応の確認
 - 一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育の充実
 - ・校内支援委員会を中心とした組織的支援（支援の必要な生徒の対応を協議、全職員で共有し、共通理解のもと指導にあたる。）
 - ・保護者及び関係機関との連携の充実
 - ・サポートファイルや個別指導計画の有効活用（合理的配慮の提供）
 - ・障害に応じた自立活動の充実（特別支援学級・通級指導）
 - 不登校支援の充実
 - ・不登校支援委員会を中心とした組織的支援（支援の必要な生徒の対応を協議、全職員で共有し、共通理解のもと指導にあたる。）
 - ・不登校担当教員、スクール・ラブによるサポート体制の充実
 - 危機管理体制の確立と安全の確保
 - ・危機管理体制の確立（①迅速かつ組織的な事故等への対応（「初期対応が全て」の意識をもって対応）、②危機管理の「さ・し・す・せ・そ」を常に意識する。③「報・連・相」の徹底、④関係機関との連携）
 - ・毎月の安全点検による事故の未然防止
 - ・防災、防犯訓練を通じた安全確保と安全意識（自助意識）の高揚
 - ・「多可町通学路安全プログラム」に基づく通学路の実態把握、安全対策
 - 専門機関・関係機関と連携した生徒支援
 - ・「多可町子育て・学校園サポートチーム」との連携
 - ・その他各専門機関との連携

1 豊かな心の育成 ～ひとりひとりの居場所のある学級づくり～

- 温かい人間関係づくりの推進
 - ・一人ひとりの居場所があり、安心できる学級づくり
 - ・学校行事、生徒会活動を通じた、絆づくり、社会性・自主性・自立性の育成
 - ・「生活ノート」を通じた信頼関係づくりと援助希求のキャッチ
- いのちを大切に、自分とともに周りの人を大切にしようとする意識（人権意識）の向上
 - ・「心の健康教育」による系統的なSSTの組織的推進
 - ・いのちの授業の実施
 - ・人権教育コア・カリキュラムの計画的実施と授業改善

○道德教育の充実

・特別の教科「道德」の指導方法・評価方法に係る研究の充実 ・全教職員によるローテーション授業の実施

・情報モラル教育の充実（生徒会、PTAと連携）

○キャリア教育の推進

・社会的自立に必要な態度や能力を育てる系統的なキャリア教育の推進（特別活動、総合的な学習の時間等）

○ふるさとを誇りに思う心の育成 ～ふるさと教育の充実～

・地域教材、地域素材を活かした授業の推進 ・「多可町ふるさと検定」への挑戦 ・杉原紙年賀状コンクール等への積極的な応募 ・敬老の日発祥の町として、地元老人福祉施設等へのボランティア活動の推進

2 確かな学力の育成 ～子どもたちに「確かな学力」を身に付けさせる授業づくり～

○基礎基本の定着

・「第2期多可町学力向上3か年計画」に基づく学力向上に係る取組の推進

・学習規律の確立 ・学習相談日、放課後、長期休業日等を活用した補充学習の充実 ・学習タイムの充実

・スタディサプリを活用した復習の推進

○ユニバーサルデザインを取り入れた授業づくりの改善（めあて、授業の流れの掲示）

○「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善と教職員の資質向上

主体的・対話的な深い学びの視点にたった授業改善 ・言語活動を活かした授業づくり（「書くこと」の日常化）

・タブレットの活用による授業の効率化と生徒の活動時間の保障

○読書活動の充実

・読書週間の取組 ・図書室や学級文庫等読書環境の充実 ・学校図書館司書の配置による読書環境の整備

○家庭学習の習慣化

・「学習の手引き」の改訂（学習方法・評価方法の明確化） ・「生活ノート」を活用した家庭学習の習慣化

3 健やかな体の育成 ～最後までやり抜く丈夫な体としなやかな心の育成～

○基本的な生活態度・生活習慣の確立

・生徒会を中心とした生徒主体の日常生活のふりかえりと改善 ・基本的生活習慣の確立（「み・そ・あ・じ」～身だしなみ・掃除・挨拶・時間～） ・「あったかあいさつ運動」との連携 ・家庭と連携した生活習慣（タブレット、スマホ、ゲーム等との向き合い方、使用時間）の見直し推進

○体力の向上、食育・健康教育の推進

・体育の授業や体育的行事等を通じた基礎体力と最後までやり抜く強い心の育成 ・体力テストから見える課題への対応 ・日常的な保健指導の徹底 ・「食育全体計画」に基づく食育指導 ・食物アレルギーに対する共通理解

4 保護者や地域から信頼される学校づくり

○保護者・地域から信頼される教師集団の形成

・報告・連絡・相談の徹底 ・迅速かつ適切な組織的対応 ・PTAや保護者との密な連携

○学校教育活動の積極的な公開、情報提供

・オープンスクールの充実 ・学校だより、学校ホームページによる積極的な情報発信

○学校評価を活用した学校運営の改善

・学校評議員制度の活用 ・P D C A サイクルを活用した教育活動の改善 ・学校評価の公表

○小中連携の促進

・校種間の円滑な接続のための、八千代小学校との連携促進

5 働きがいのある学校づくり

○勤務時間の適正化

・「統合型校務支援システム」の活用 ・「教職員定時退勤日」の完全実施 ・タイムマネジメントを意識した職務遂行 ・学校行事の精選と見直し ・I C Tを活用した校務の効率化の推進

○明るく風通しの良い職場づくりの推進

・あらゆるハラスメントのない職場環境づくり ・心身の健康保持に配慮した体制づくり

○ワーク・ライフ・バランスの推進

・年次休暇の計画的な取得促進